

## 令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

担当部署の属性をお選びください

記

### 1. 申請団体情報 1-1. 申請団体

団体名	南国市			代表者名	平山 耕三
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	企画課企画調整係	連絡先電話番号	088-880-6553
担当者役職	係長	担当者氏名	小原 伯孔	連絡先E-mail	
住所	783-8501 高知県南国市大そね甲2301				

### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名（予定）	DX推進事業（EBPMの推進）
概要	EBPMの必要性・手法などについて学ぶ職員向けの講義及びワークショップを実施する		
支援を求める分野	EBPM		

## 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	O28K	令和6年8月20日	講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年7月18日	支援・助言(実地)	10時00分	17時00分	60
			活動時間（分）	360	
2-2. 派遣場所	会場名	南国市役所	最寄駅	JR後免駅	
	所在地	高知県南国市大そね甲2301	最寄駅からの交通手段	徒歩	

## 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	村上 文洋
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	EBPMを含むDX推進について、課題解決の考え方、手法について学ぶグループワーク（与えられたテーマに対して、課題・理想的な状況を考え、さらにそれを実現するための政策を立案する研修）を実施した。これまでも課題解決法を学ぶ研修は庁内で実施してきたが、本研修は全受講者からの意見が出やすい構成であり、煮詰まったグループには講師の知見を基にした的確なアドバイスをいただけたため、全グループが躓くことなく、発表まで主体的に取り組むことができた。わかりやすく、実践的な研修であったため、自業務においても研修内容の実践につながると感じた。
アドバイザーへの要望事項	受講者から出た意見を踏まえ、DX担当部署が抱えている課題、今後の進め方などを3回目のフォローアップでアドバイスをいただきたい。

## 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	31人
	属性	自治体職員	住民
	人数	31	企業・団体
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果			
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	政策立案が主観や経験によって行われており、科学的なデータや調査結果を重視して政策を立案、実施することの意義を理解しデータを活用し業務につなげる習慣がこれまでなかった。管理職も含めてデータにより政策の意義や効果を説明することができていない。職員はEBPMの推進と言われても、どのような取り組みなのか、何から始めればいいのかわからないなどと感じている職員も多い。また、それぞれの部署で業務の結果データは蓄積されているが、サイロ化しており、他部署のデータと組み合わせる新たな視点で政策を展開することはできていない。		
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	主観や経験に頼るのではなく、科学的なデータや調査結果を重視して政策を立案、実施し、効果検証を行うことが地域課題の解決につながることを職員が意識し、実践できる組織となり、そして地域課題に対して根拠となるデータを用いながら住民と共同で課題に取り組むことで、より地域に即した課題解決が行えることを目標としている。		
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	庁内におけるDXやEBPM推進する意識の醸成を図るため、DX推進リーダーを対象として、課題解決の考え方、手法について学ぶグループワーク（与えられたテーマに対して、課題・理想的な状況を考え、さらにそれを実現するための政策を立案する研修）を実施した。		

支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	DXにおける業務の見える化や業務改善については、これまでも研修を行い、一定程度の知識としては身につけているが、データの利活用(EBPM)の習慣化については、今後のDXを進めるうえでの取組みの一つであった。本研修により、EBPMの基礎的な知識及び実践方法の学習により知識の習得につながった。また、実際に自ら政策立案を考えた経験が、今後の自業務における実践につながると思われる。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑤組織業務改善ができた EBPMを利用すべきDX推進リーダーを対象に研修を行ったが、グループワークを通して、日々の業務に疑問を持ち、常にエビデンスを求めることに対する意識改革につながった。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	研修の真の目的であるDXの実践について、研修を受講して終わりということは避けたいため、今後どのように働きかければ各所属で実践されるようになるか、フォローアップ(3回目)で支援をいただく予定である。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 対象は若手職員の割合が多かったが、アンケートの中には、日々の業務に常に疑問を抱いて考えていくとの意見が多くあったため、研修で得た知識を実践していけると思う。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある DX・EBPMについてはツールの導入ありきのものではないと考えているため、スモールスタートで継続していくを目標として、各所属でできることから進められるよう、研修の内容・アンケート結果を踏まえながら庁内の機運を高めていく。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	主観や経験に頼るのではなく、科学的なデータや調査結果を重視して政策を立案、実施し、効果検証を行うことが地域課題の解決につながることを職員が意識し、実践できる組織となり、そして地域課題に対して根拠となるデータを用いながら住民と共同で課題に取り組むことで、より地域に即した課題解決が行えることを目標としている。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可

掲載可

[https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past\\_year\\_all\\_houkoku/](https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/)

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

#### 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

